

解決されない「痛み」が行動・心理症状の原因？

寒さも厳しい時期ですが、みなさまお変わりなくお過ごしでしょうか？
今回は、「痛み」と行動・心理症状（BPSD）の関係についてです。

認知症の方が脳の器質的変化により、自分の状況を把握したり
周囲の人に自身の状況を上手く伝えることが難しいというのは
皆さんご存じの事と思います。

ですが、認知症の方が「痛み」をどこかに持っていた場合、
「痛み」が更にその方の脳の働きを低下させてしまう場合があるという事は
ご存じでしたでしょうか？

なぜそのような状態になるのかと言いますと、「痛み」が
ワーキングメモリに負荷を与えてしまうからです。

（ワーキングメモリとは、情報を一時的に保持しながら、それを操作し処理する能力）
認知症の状態の方は、ワーキングメモリの低下が起きている場合が多いのですが、
そこに「痛み」という要因により、更なる低下が引き起こされ
その結果、行動・心理症状に繋がるという訳です。

ちなみに、「痛み」によるワーキングメモリの低下は、認知症の方にだけ
起きる訳ではなく、我々にも起こります。

こんな状況はあり得ませんが、例えば足の小指をどこかにぶつけ、
痛みを感じている状態で計算問題をしなくてはならない状況を想像してみてください。
恐らくほとんどの人が、「痛み」によって計算問題が手につかないはずです。

そして、そのような状況が認知症の方にも起きている可能性があるという事です。
ですので、「認知症の方がどこかに「痛み」を感じているかも？」という
視点でその方を支援することが、その方の行動・心理症状を軽減できる場合があります。

ですが、認知症の方の感じている「痛み」を我々が把握することは
簡単ではないのが事実です。ですので、日々の観察などから「痛み」を見つけていく
という事が重要です。

例えば、表情から客観的に痛みを評価できる「アビー痛みのスケール」の活用や、
いつも特定の場所を擦っているなどの様子から把握していくなど、
認知症の方の出している「痛み」のサインを見逃さないことが大切です。



デイサービスすずらん梅丘空き情報

R7年 1月17日現在

	月	火	水	木	金	土
利用枠	空きあり	空きあり	空きあり	空きあり	空きあり	空きあり
入浴枠	定員	定員	空きあり	定員	定員	空きあり

現在、比較的に関きがありすぐにご利用も可能です。

見学も受付中です。ご相談だけでもお問い合わせ下さい。

お問い合わせ先 TEL 03 - 5 4 2 6 - 3 4 7 8

相談員 佐藤、宇田川まで